

【随筆】

釣りて足を痛めました

住 吉 尚

(釧路支部)

12月23日のことです。2日前には凍った地面に雨が降り、ツルツル路面でバスが事故を起こしたとか、多重衝突事故があったとか、ニュースを見て外出を控えていましたが、そろそろ良いかなー！と出かけることに。目的はラッコを見ることに決めました。目的地は根室花咲港の車石海岸です。相変わらず大空にはオオワシが舞い、道路脇の巨木にはオジロワシの姿も。心配した道路ですが、走り始めはベチャベチャでしたが、上尾幌分岐あたりからは乾燥路面で運転に支障はありません。順調に走り、目的の花咲港に。ここから坂を登り岬の先端にある駐車場に。海は静かで絶好の観察日和です。でも海にはさっぱり生き物の姿がありません。しばらく歩き回りましたが、見えたのは海上に浮かぶシノリガモの夫婦ぐらいでした。シノリガモはオシドリにも負けないほど派手派手しく飾ったとても美しい海ガモで、冬の海には普通におり、釧路港でも簡単に見られるでしょう。港では岸壁に着いた海藻や貝類でも食べているのでしょうか？よく岸壁際で見ることができます。でも主に見られるのは荒磯です。このカモは繁殖も山奥の溪流と、ずいぶん変わった暮らしをしています。でも目的のラッコは見当たりません。がっかりです。

では次の目的地へ。今度は霧多布岬です。国道に行くか？海岸道路に行くか？迷いましたが、落石、別当賀、



シノリガモの夫婦

初田牛、恵茶人、幌戸と走り霧多布へ。冬の平日ですから岬の駐車場には車などないと思っていましたが2台停まっていた。さて駐車場に近いところから海をのぞき込みながら先端に向かって進みます。ここは花咲と違って沢山の海ガモが浮いています。でも双眼鏡で見てもほとんどがクロガモでした。先端まで行くと先行者が。大きな望遠レンズ付きのカメラを担いだ体格の良い男です。「どうですか！ラッコは見えましたか？」と私。首を横に振る男。ここもダメか！がっかりしながら戻り始めると、彼もまた同じ道に戻り始めました。大きなカメラを担いでゆったりと先を歩いています。私はといえばせっせと急ぎ足で歩いて行くのですが、なぜか彼との差は広がるばかり。エー！こんなに私はのろいのか！自覚している以上に体力が落ちているのでしょうか。これまたがっかりです。駐車場に一番近い波打ち際の観察ポイントに先に着いた彼が、波打ち際を指さします。急いでのぞき込む私。あー！ラッコだ！1頭だけでしたがのんびり泳いでいます。ここは大変高い崖の上ですから、波打ち際が見えるポイントがそう多くはありません。一方ラッコは波打ち際から離れることはあまりないのでどんどん泳いで行き、見えなくなっていました。でも、ほんの数分でしたがラッコが見られ、まずは満足です。帰り道の電柱に止まっていたのは普通のノスリで、期待していたケアシノスリではありませんでした。でも幌戸ではチュウヒと言うタカの種類も見え、まずまずの一日でした。

26日には飯寿司をひっくり返しました。我が家での年末最大のイベントです。こちらは作る前から問題が。まずは漬ける材料である魚が釣れなかったので、量は昨年の半分、しかもその大部分がチカと言うありさま。チカには申し訳ありませんが、道東ではチカはやはり雑魚で



オオワシの成鳥

しょう。あまり高級品に見えないのは残念です。でも味は良いのですよ！さて漬ける段になって、麴を混ぜるためにご飯を炊きました。でも、このご飯がいつもとずいぶん違います。麴を混ぜるのですから少々メッコ飯ぐらいで良いのですが、芯があるどころではありません。？と思いながら麴を混ぜてみましたが、どうもうまく麴が増えていかないようです。仕方なく麴を買い増しして酒も多めに入れ、混ぜてしばらく置いて、少しは良かったかな？と言うところで漬け込みをしました。その夜、布団の中で「はた！」と思い当たりました。そう言えば、最近食べるご飯が美味くない、と言うことは炊飯器が壊れている！と。次の朝、さっそく妻に「炊飯器が壊れている！」と言うと、「そう言えば最近ご飯が美味しくないものね！」と。少しずつ壊れていくことに気づくのはこんなものなのでしょうか？歳のせいでしょうか？鈍いものですね。それでは！と新しい炊飯器を買ってご飯を炊きました。何のことはない、銘柄米でなくても大変おいしく炊けました。こんなことがあったので、飯寿司のできについては大変心配しながら開けてみました。この冬は暖冬傾向が強く、物置に置いた飯寿司も凍ることもなく順調です。でも発酵が上手くいっているか、だけが心配でした。結果はワー万歳！とまではいきませんでしたが、まずまずと言うところでしょうか？なんとかできましたが、いつもの半分、しかもチカばかり、ですからあまり自慢できるものではありませんが、安心しました。

年末どころか1月に入っても全道的に雪が少なく、あちこちで雪不足による困った問題も出始めているようです。この少雪はいつまで続くのでしょうか？年末ぎりぎりにあちこち見て歩きましたが、もちろん道東はどこも積雪はほぼゼロ。エゾシカ駆除の効果が出てきているのでしょうか？今冬はエゾシカの姿があまり目立ちません。特に走古丹周辺でのシカの数は数年前の1/100と言った感じでした。でも全く減った感じがしない場所もあります。私が見た範囲では霧多布湿原の中にいるシカはむしろ増えているかも？と思わせるほどです。シカが人家近くに固まる傾向は強まっているのでは？とも思いました。シカが駆除されない場所を覚えてしまい、行動範囲を変えてきているのでしょうか。雪が少ないので道路脇も白くはありません。茶色いシカが見分けにくい状況が続いていますから、郊外を走るときは充分ご注意ください。行ってみて面白いなー！と思ったことは、野付半島では4群で50~60頭のシカを見ましたが、こちらは全頭全て雄で、霧多布湿原で見たのはこの10倍以上でしたがこちらは全て雌でした。これが何を意味しているかは私にはさっぱ



霧多布湿原の雌ジカの群れ



野付半島の雄ジカ

り分かりません。

さて「雪が少ない今が狙い目」とばかりに風連湖に釣りに出かけました。年末の29日のことです。林道に積雪が多いと車のすれ違いができないので苦勞するのですが、雪がないと雪の中を走れる車でなくても行けるからです。氷の状況を見ると、今冬が特に暖冬ではないようで平年並みに凍っていました。早速車からソリを下ろし林の中を引いていきます。すると釣りを止めて帰ってくる人が。私が釣り場に着いたのは9時半を過ぎていましたからもう10時に近かったでしょう。早朝に入った釣り人です。「どうでしたか？」「全然だめよ！」でも今更止められません。強い風にてこずりながらテントを張り、釣りを始めました。でも予想に反してチカがどんどん釣れ始めました。11時には十分な量が釣れたのでやめて片付けです。なんせ暮れの29日です。「こんな日に沢山釣って来て！」と妻に叱られない程度でやめておくのが夫婦円満の秘訣でしょう。ソリを引いて戻ってきましたが、途中から左足に痛みが！軽い肉離れでしょうか？なんとか車に戻り帰路に。でも途中で開いているレストランはあり

ません。コンビニ弁当で我慢です。

こうして年が明けました。1月2日と3日は箱根駅伝を見ながらの寝正月でした。5日は日曜日ですから釣りは避け、あちこちの釣り場を見て歩きました。6日は新年あいさつ回り。では7日は釣りですね。今度は厚岸でワカサギ釣りです。予想通りに釣り人は多くはありません。まだ少し痛い足でソリを引きましたが、氷に上がるところでギクリ、痛いところをまた痛めたようです。それでも頑張って釣り開始です。この日は妻も一緒に釣ります。2時間ほど釣りましたか、11時半には帰路に。帰りに氷と陸の間でまたまたギクリと痛めてしまいました。この日は厚岸コンキリエで昼食を食べ、足は痛いものの満足な一日で100匹ほどを天ぷらに揚げ、近所にも配ろうと頑張りました。足は痛いものの釣りには行きたい！8日は獣医師会に出勤ですから、今度は9日です。足が痛いからあまり歩かなくても良いところ。狙い目は火散布布でしょうか。ここでの獲物は大きいです。霧多布岬まで行き、ラッコを見ようとしたがこの日は留守のよう。では！と釣り場に。ここは車を停めるとすぐそこが釣り場ですから、そっと左足をかばいながらソリを引いて10mほど行って氷に穴をあけます。ここは細長い水路ですから魚の動きに合わせて釣り人も動きます。テントは張らずに釣るので大変寒い釣りです。釣れている人を見つけると皆その周りに集まり、釣れなくなると又バラバラに。ほかの釣り人の様子をちらちら見ながらの、何とも貧乏くさい釣りです。椅子に座って動かないのは私ぐらいです。それでも2時間やって50匹ぐらいも釣ったのでしょうか？帰りはどこで何を食べようか？などと考えながら帰路に。3連休は私の釣りもお休みです。これは釣り場が込み合うだけでなく、子供連れなども多く、氷の上が騒がしいと魚があまり釣れなくなる、と私が思っ



休日はテントがいっぱい

ているからで、真偽のほどは？ともあれ、休みの日にしか釣りに行けない人が多いのですから、何時も休日の私のような年金生活者は遠慮も必要でしょう。

と言うことで、土曜日11日にはタンチョウの観察に標茶町を回ってみました。畑には全く雪がないので、タンチョウの姿を見つけるのは実に容易です。ただ1カ所に集まると言う必要がないと言うことか、バラバラとたくさんのタンチョウが見られました。24日から今年のカウント調査が始まりますから、カウント総数がどんなことになるかが気になるところです。

(俳句)	ばんば競る氷まじりの砂を踏み
(川柳)	郷に入れどもゴーンは郷に従わず
(都々逸)	規模拡大 金をはたいて 乳牛買えば サルもヨーネも 付いてくる
(現代漢詩)	誘致金 加計学園残疑惑 森友学園残疑惑 加森観光新疑惑 合計加算動何億
(幕別町)	豆作 (まめさく)

(句題)	光の春
「暈目に光の春の陽射かな」	
「窓際は光の春の眠り猫」	
「峪の街光の春はとききり」	
(室蘭市)	白波瀬 稔歳

